



11月の行事

11月9日(土)「平成25年度北見市国際交流カーリング体験」
於: アドヴィックス常呂カーリングホール(ADVICS TOKORO CURLING HALL)

今年も北見市青少年国際交流事業委員会主催の「国際交流カーリング体験」が本学の留学生も参加し、実施された。会場は、今年(2013)11月1日に新たにオープンした「アドヴィックス常呂カーリングホール(6シート)」を使用し、オープン間もない贅沢な環境の下、実施された。午前中は、カーリングの上を片足で蹴りながら進む練習や、ストーンの投げ方、ブラシの使い方など、基本的な動作の習得を行った。昼食をはさみ、午後からは8チームに分かれ、トーナメント形式での試合が実施された。昨年参加した学生も中には含まれていたものの、多くの留学生が初めての体験ということもあり、作戦以前に、ハウス(House)と呼ばれる円の中心に投げることに必死になっていた。特に、力加減の調整に苦慮していた学生が多く、一見簡単そうに見えるスポーツでも実際やってみるとなかなか思ったところにつけてくれないといったもどかしさをそれぞれ感じていたようである。帰途に着くころには、内股が筋肉痛になっていた学生も見受けられ、カーリングの楽しさの反面、ハードな一面を感じる事ができた。カーリングの町、北見において、多くの人がカーリングに触れ、楽しさを知ってもらうことを願っている。



目次

P1

・11月9日
北見市国際交流
カーリング体験

P2

・11月17日～18日
留学生工場見学会
・11月23日
Let's make Takoyaki

P3

・12月10日
海外留学、
語学・交流研修報告会
・1月9日
留学生スキー研修

P4

・Cアワー
11月「折り紙」
12月「コンサート」
1月「もちつき」
・今後の予定





11月17日(日)～18日(月)

「留学生工場見学会」 洞爺湖町・室蘭市

昨年より実施している「留学生工場見学」が、一泊二日の日程で実施された。昨年は、苫小牧市にあるトヨタ自動車北海道を訪れたが、今年も、一日目は西山山麓火口散策路(洞爺湖)、二日目は室蘭製鉄所を訪れた。また、参加者も留学生に限定せず、日本人学生の参加も募り、総勢43名(短期14名、正規14名、日本人学生13名、引率2名)が参加し、実施された。見学会先が本学の所在地である北見市から西へ400Km以上離れていることもあり、多くの時間を車内で過ごしたものの、学生同士趣味の話などで盛り上がっていた。引率教員も車内で楽しめるゲームなどを考え、必死に場を盛り上げていた。一日目の西山山麓火口散策路(洞爺湖)では、2000年の有珠山噴火で開いた火口や隆起した旧国道などの被災状況が当時のまま保存されており、今でも自然災害の脅威を直に感じることができた。二日目は、室蘭製鉄所を訪れ、棒鋼の製造過程を見学した。鉄は、私たちの身の回りで広く使われており、必要不可欠のものであると実感させられた。また、高炉で溶けだした銑鉄を転炉におくり酸素を吹き付ける様子も見られ、現場のすごさを感じた。こうして、広い敷地をバスで移動しながらゆっくり見学することができ、モノづくりの重要性を改めて実感できた一時であった。

11月23日(土)

「Let's make Takoyaki」

於:インターナショナルラウンジ

国際交流サークル(OFIC)主催によるイベント「Let's make Takoyaki(たこ焼きを作ろう)」が23日(土)開催された。当日は、OFIC所属の日本人学生10名と外国人留学生15名が集まり、皆で楽しくたこ焼きを作り挑戦した。留学生達は、全員が初めてのたこ焼きづくりということもあり、当初は慣れず、苦労していたが、徐々にコツをつかみ、きれいに丸めていった。材料もタコの他にチョコレートやチーズなど、普段あまり入れない具材も入れ、口の中にアツアツのまま頬張っていた。若干材料を多く用意し過ぎた感があったものの、全てを食べ切り、イベントは大成功に終わった。



12月の行事

12月10日(火)

「海外留学、語学・交流研修報告会」16:20～17:50

於:講堂

今年度も「総合工学Ⅱ」の講義の一環として、「海外留学、語学・交流研修報告会」を実施した。会の冒頭、許斐ナタリー国際交流センター長より本学の留学制度について紹介が行われた。現在本学では、国際交流協定締結大学が8か国22大学あり、そのいずれにおいても留学が可能であるとの説明があった。しかし、留学するには、留学以前に出来るだけ多くの単位を取得しておく必要がある他、留学準備もしっかり行う必要があるとのアドバイスもあった。今年度もポーランドに二名、アメリカに一名の学生が留学を行っており、徐々にではあるが、留学希望者も増加傾向にある。留学制度の紹介の後、2013年の2月～9月の期間中に語学研修や交流研修に参加した学生の報告があり、研修内容を10分間に凝縮し、伝えてくれた。どの研修においても、語学学習の他、文化体験や観光などを通じて、現地での滞在を満喫していたことが十分伝わってきた。報告会の最後には、2012年9月から9か月間アメリカのアラスカ大学フェアバンクス校に留学していた中田さんの発表があり、留学の様子や大学の授業などについて報告があった。今回は、報告内容が多かったこともあり、チームごとに十分な時間が持てなかったものの、会場にいた学生達は、真剣な面持ちで報告を聞き入っていた。終了後、参加者に積極的に質問をしている姿も見受けられ、来年以降の留学・研修に前向きに考えている学生も見受けられた。



1月の行事

1月9日(木)

「留学生スキー研修」

於:ノーザンアークリゾートスキー場



後期授業再開の前日に当たる9日(木)、留学生スキー研修が大学近くのノーザンアークリゾートスキー場において実施された。時折太陽も顔をのぞかせる穏やかな天気の中、留学生とチューター学生の計39名が、スキーに挑戦した。参加学生のうち25名が生まれて初めての体験となった。今回のスキー研修では、レベル別に3つのグループに分かれ、スキースクールのインストラクターの方から指導を受けながら実施した。慣れないスキー板に山を登ることも難しく感じる中、最初は足で登っては滑り、登っては滑りを繰り返した。少しずつ滑れるようになり、カーブもできるようになってくるとリフトを使い、山の中腹から滑ることに挑戦した。呑み込みの早い学生が多く、午後にはスイスイ滑っている様子をたくさん見かけた。一方の経験者は、最初からリフトを使い、華麗に滑っていた。それぞれが思い思いに楽しんでいった研修となったようである。

今後の予定

2月 1日(土)
公開講座「国際理解講座」
13:30～16:30
於:会議室1・2

2月 10日(月)
短期留学生修了式
16:30～17:30
於:講堂

2月 13日(木)～
21日(金)
後期定期試験

2月 16日(日)・17日(月)
北方圏国際シンポジウム
『オホーツク海と流氷』
於:紋別市

2月 22日(土)
～3月 31日(月)
学年末休業日

2月 22日(土)
～3月 22日(土)
中国語短期語学研修
於:台湾中国医薬大学
北港キャンパス

3月 4日(火)
留学生交流の夕べ
18:00～
於:アトリウム

3月 20日(木)
学位記授与式

発行所:
北見工業大学国際交流センター
住 所:北見市公園町165
電話番号:(0157) 26-9370
FAX:(0157) 26-9373
Email:
kenkyu05@desk.kitami-it.ac.jp



Cアワー



11月 27日(水)

「折り紙」 16:30～ 於:ミーティングルーム2

毎月恒例の国際ナショナルCアワー、11月のテーマは、「折り紙」。今回の内容は、折り紙の本を見ながら、紙を折って、互いに交流しようというものであった。冒頭、許斐国際交流センター長より、折り紙の歴史や日本における千羽鶴の意味等についての紹介があり、その後、折り紙作りがスタートした。開始と同時に、全員が折り紙作りに集中し、一瞬部屋が静まり返っていた。参加者の中には、ミリ単位の非常に小さい鶴を折ることのできる日本人学生もおり、周辺の人達を驚かせていた。開始から30分も経つと、折り紙の作り方を教えあったり、作った折り紙で遊んだりして、交流がどんどん広がっていった。

12月 19日(木)

「国際ナショナルコンサート」

16:30～18:40 於:講堂

今年の「国際ナショナルコンサート」は、講堂を貸し切ったのビッグな開催となった。出演者は、本学の学生の他、北見市民の方々も参加し、5か国、12組、延べ43名の皆さんが、歌や踊り、演奏や華麗なパフォーマンスを披露してくれた。当日は、出演者の他にも50名ほどの観客もあり、会場は、総勢100名で熱気にあふれていた。普段の生活ではあまり学生達の才能に触れる機会がないものの、コンサートを通じて、非常に優れた才能を持っていることを知り、脱帽の一言である。また、市民の方々の三味線の演奏もあり、和のテイストも取り入れた素晴らしいコンサートになった。皆が一体となり楽しめたことに、感銘を受けた次第である。



1月 24日(金)

「もちつき」16:30～ 於:1号館1階ロビー

新年最初となった今回は、JICA研修でモンゴルから来日中の13名の研修員も交え、「餅つき」を実施した。留学生達も初めて見る石臼や杵に興味津々で、多くの学生が手に取って餅をついていた。中には、とても力強くつく学生の姿も見られ、臼が壊れるのでは中と心配する一面もあった。つきたての餅は、「粒あん」、「ゴマだれ」、「きな粉」をまぶし、参加者全員に振る舞われた。留学生には、きな粉が1番人気であった。7キロのもち米から作った2臼分の餅は、あっという間になくなり、お腹も満たされたところで、お開きになった。今年一年も元気に粘り強く何事にも果敢に取り組んでいきたいものである。

